

関節リウマチに対する 桂芍知母湯エキス細粒の有用性

今田屋内科(千葉県) 今田屋 章

関節リウマチ2症例における桂芍知母湯エキス細粒の有効性についての検討を行った。両症例共にメトトレキサートの服用は行わず、桂芍知母湯エキス細粒9.0gと防已黄耆湯7.5gの併用、およびサラゾスルファピリジン1,000mgの追加、または防已黄耆湯を桂枝加朮附湯7.5gに変更することで関節痛が改善し、寛解を維持することができた。

Keywords 関節リウマチ (RA)、桂芍知母湯エキス細粒、メトトレキサート、防已黄耆湯

はじめに

著者はこれまでも関節リウマチ (Rheumatoid Arthritis: 以下、RA) に対する漢方治療の有用性を報告してきた。これまでは桂枝芍薬知母湯、桂枝二越婢一湯、桂枝加朮附湯の煎剤を用いてその有効性を検討した¹⁻⁴⁾。

今回はRA治療における漢方治療の代表的方剤である、桂芍知母湯エキス細粒の有効症例を経験したので報告する。

症例1 55歳 女性(無職)

【主 訴】 多関節痛。

【現病歴】 30代のときにRAと診断された。鎮痛剤、サラゾスルファピリジンを中心に投与された。病状は落ちついていたが、当院初診時の1ヵ月前より悪化した。RA専門医よりメトトレキサートでの治療を勧められたが服用せず、漢方治療を求めて当院を受診された。右肩関節、左右足関節、左指第Ⅲ指に関節痛がある。

【身体所見】 身長143cm、体重43kg、血圧146/90mmHg、栄養やや不良、肺心異常なし、ヘルクロ音・ラ音なし、肝脾触知せず。

【生化学的所見】 RBC: 430万個/ μ L、WBC: 5,140/ μ L、Ht: 38%、Hb: 12.2g/dL、GOT: 30IU/L、GPT: 15IU/L、CRP: 0.22mg/dL、RF: 117IU/mL、抗CCP抗体: 546U/mL、MMP-3: 546ng/dL。

【X線所見】 手根骨は一体化 (stageIV)。

【漢方医学的所見】 表1に示す。

【臨床経過】 漢方医学的所見から陰虚証である。瘀血もあるが治療の対象ではない。桂芍知母湯エキス細粒9.0gを投与し、防已黄耆湯7.5gを併用した。さらにサラゾスルファピリジン1,000mgも併用した。投与後、関節痛が徐々に改善し、5ヵ月後にはすべての関節痛が消失した。以後、関節痛が悪化することもなく、当院での治療3年後の現在、関節痛もなく寛解を維持している。

【治療後の生化学的所見】 CRP: 0.06mg/dL、RF: 71IU/mL、MMP-3: 70.9ng/dL。

【考 察】 20年以上のRA罹病歴がある患者である。RA専門医からリウマチの予後に関する説明を受け、ショックを受けた。メトトレキサートの投与を勧められているが、服用せず漢方治療を求めて当院を受診した。

本症例の患者はメトトレキサートを使うことなく、約3年近く非活動性の状態が続いている。また、漢方薬の副作用も認められなかった。本症例は桂芍知母湯エキス細粒の適応病態と思われる。しかし、抗CCP抗体、RA因子がまだ陽性であるため、経過観察が必要である。

表1 症例1 漢方医学的所見

自覚症状	疲れやすい、食欲がない、寒がり、 唾液が少なく口が渇く
他覚症状	脈: やや浮、弱
	舌: 舌質は赤紫。舌苔は乾燥して白黄色
	腹: 腹力弱、胸脇苦満なし、臍上悸あり、 臍傍圧痛あり
	四肢: 厥冷あり

症例2 59歳 女性(無職)

【主 訴】 多関節痛。

【現病歴】 5年前に他院にてRAの診断を受けた。プレドニゾロン10mg、メトトレキサート6mg/週が投与された。当院受診の2年前に間質性肺炎を起こし、メトトレキサートが中止される。以後、プレドニゾロンも自己判断で中止した。それにより関節痛が徐々に増強し、漢方治療を求めて当院を受診された。両手関節、両足関節、両手第II、III、IVのPIP関節(指の第2関節)に疼痛をみとめる。

【身体所見】 身長152cm、体重49kg、血圧148/90mmHg、栄養やや不良、肺心異常なし、ヘルクロ音・ラ音なし、肝脾触知せず。

【生化学的所見】 RBC: 450万個/ μ L、WBC: 8,520/ μ L、Ht: 43.0%、Hb: 13.7g/dL、GOT: 19IU/L、GPT: 15IU/L、CRP: 0.48mg/dL、RF: 48IU/mL、抗CCP抗体: 544IU/mL、MMP-3: 120ng/dL。

【X線所見】 手根骨は一体化(stageIV)。

【漢方医学的所見】 表2に示す。

表2 症例2 漢方医学的所見

自覚症状	疲れやすい、寒がり、口が乾く、食欲がない
他覚症状	脈: 沈、弱
	舌: 舌苔乾燥し、舌質赤紫
	腹: 腹力弱、臍上悸、左右臍傍圧痛あり
	下肢: 冷えている

【DAS28】 DAS28-CRP: 4.28 (high disease activity)。

【臨床経過】 陰虚証である。RAにおいて陰虚証の代表である桂芍知母湯エキス細粒9.0gを投与し、防己黄耆湯7.5gを併用した。徐々に関節痛が軽減し、3ヵ月後に痛みは足関節のみとなった。野菜が剥けるようになった。4ヵ月後に疼痛が少し増強し、防己黄耆湯を桂枝加朮附湯7.5gに変更した。これにより関節痛が著減した。1年後、圧痛関節なし、腫脹関節なし。

【治療後の生化学的所見】 VAS: 1.5、CRP: 0.36mg/dL、DAS28-CRP: 1.28 (Remission)。

【考 察】 本症例はメトトレキサートおよびステロイド

を中止し、漢方単独治療で寛解を維持することができた。RA治療において漢方薬が有効な1群がある。筆者は長年RAに対して煎剤による治療を続けてきたが、近年はエキス剤に反応するRAに遭遇することも少なくない。したがって、まず、様子を見るためにエキス剤を使い、経過観察することがよいと思われる。

桂芍知母湯の使い方

桂芍知母湯は体力虚弱(虚証)で寒冷徴候(陰証)の患者に使用する。瘦せて皮膚枯渇、鶴の膝のような関節変形を伴うことを典型とする。また、口燥をみとめることが多く、手足の冷えは強く、夏でも温まらない。

病期の進行した症例では、活動性の有無に関わらず、本方を第一選択とする。しかし、実際には病期にかかわらず奏効することが多く、教科書的な使用方法では桂芍知母湯の真価がわからない。また、桂枝加朮朮附湯で効果が不十分な場合は、桂芍知母湯への変方を検討する。図1の桂芍知母湯の使用基準に2項目に該当するようであれば、桂芍知母湯を活用することをお勧めする。

なお、RAの多くはこわばりや関節腫脹などの水毒の徴候があるため、防己黄耆湯を併用することがポイントである。

図1 桂芍知母湯に特徴的な徴候

- 1 体力は虚弱
- 2 通年性の冷えがある
- 3 手足の変形が顕著
- 4 口燥(口の中が乾く)はあるが口渇はない
- 5 のぼせ傾向は強くない
- 6 発汗傾向は強くない

【参考文献】

- 1) Terasawa K. et al.: Therapeutic effect of Sino-Japanese (Kampoh) medicine on rheumatoid arthritis, J. Med. Pharm. Soc. WAKANYAKU, 2: 439-445, 1985
- 2) 今田屋章: 慢性関節リウマチの漢方治療, 漢方の臨床, 35 (1): 63-70, 1988
- 3) 今田屋章: 慢性関節リウマチの漢方治療, 東洋医学, 26 (6): 34-40, 1998
- 4) 今田屋章: リウマチ性疾患の漢方治療 -煎じ薬- 桂枝芍薬知母湯 -煎じ薬-, リウマチ科, 27 (5): 474-480, 2002